

教育長報告事項資料

一般事務報告

- 1 スポーツ推進委員会議（7/4）（生涯学習課長）
- 2 文化財保護委員会（7/18）（生涯学習課長）
- 3 社会教育委員の会議（7/23）（生涯学習課長）
- 4 小学生登別市派遣事業（7/28～7/30）（学校管理課長）
- 5 中学生オーストラリア派遣事業（7/29～8/7）（学校管理課長）

専決事務報告

なし

その他

- 1 幼児教育・保育のあり方について（こども未来課長）
- 2 その他

令和6年度白石市総合防災訓練参加者数調べ

資料1

令和6年6月9日(日)実施

地区	指定避難所名	自主防災組織 /自治会数	参加人数①			施設管理者②		小計 ①+②	消防団 ③	市職員 ④	避難所 総参加者数 ①+②+③+④	市議 市民欄の 再掲	その他	一時避難所	
			市民 (議員含)	うち 運営委員	うち 小中学生	施設 管理者	うち 教職員							避難者数	内小中学生
白石西	白石第一小学校	9 / 11	507	11	355	5	(5)	512	30	7	549	1		403	55
	白石第二小学校	1 / 2	196	10	126	5	(5)	201	5	8	214	0		67	23
	白石中学校	1 / 1	54	0	14	1	(1)	55	0	4	59	0		0	0
	白石高等学校	4 / 4	102	4	26	2	(2)	104	0	4	108	0		138	26
白石東	中央公民館	4 / 4	101	0	30	0	(0)	101	0	8	109	0		79	12
	白石工業高等学校	3 / 3	232	0	40	5	(5)	237	5	5	247	0	白工生 10名含む	224	40
	スポーツセンター	1 / 1	78	10	57	1	(0)	79	5	6	90	1	第一環境 11名含む	-	-
	鷹巣地区コミセン	1 / 1	109	23	20	1	(0)	110	0	4	114	0	テラスステム 2名含む	-	-
	ホワイトキューブ	3 / 3	193	0	111	2	(0)	195	6	10	211	0		510	111
越河	越河公民館	9 / 10	77	25	32	3	(0)	80	44	8	132	0		74	12
	越河小学校	- / -						0			0				
	南小中学校	- / -						0			0				
斎川	斎川公民館	- / -						0	0		0	1			
	旧斎川小学校	10 / 10	21	15		1	(0)	22	30	8	60	0	6	59	6
大平	大平公民館	- / -						0	0		0				
	大平小学校	10 / 10	114	11	93	4	(2)	118	0	7	125	2		163	93
大鷹沢	大鷹沢公民館	- / -						0			0				
	大鷹沢小学校	12 / 12	126	0	46	10	(7)	136	0	9	145	2		597	22
	東中学校	- / -						0			0				
白川	白川公民館	- / -													
	白川小学校	7 / 7	93		30			93		12	105			465	30
	旧白川中学校	- / -													
福岡	福岡公民館	3 / 3	17	0	5	2	(0)	19	0	7	26	1		83	5
	福岡小学校	1 / 1	109	0	78	4	(4)	113	0	5	118			47	20
	福岡中学校	2 / 2	279		40	6	(6)	285	22	5	312		1	224	40
	総合福祉センター	8 / 8	10	0	7	3	(3)	13	0	4	17			153	4
深谷	深谷公民館	- / -				1	(0)	1			1				
	深谷小学校	4 / 6	82	7	75	12	(12)	94	27	8	129			146	75
小原	小原公民館	/						0			0				
	小原小中学校	8 / 14	67	14	13	2	(0)	69	0	6	75			126	2
	スパッシュランド	- / -						0			0				
合計		101 / 113	2,567	130	1,198	70	(52)	2,637	174	135	2,946	8	16	3,558	576

102自治会101組織(越河3・4区合同)

避難所以外職員 208 ⇒次ページ(特別職など除く)

職員参加総数 351

※消防団※	
地区警戒巡回+避難所参加	174
地区警戒巡回のみ(避難所参加せず)	298
合計	472

市民など	児童生徒・教員	消防団	職員	特別職など	参加総数
2,637	825	472	351	5	4,290
一時避難所までのみの参加者数 (一時避難所参加者-指定避難所参加住民)					991
総参加者数					5,281

=3558-2567

小中学生・教員参加者数	2,075
計上済み(避難所参加)人数	1,250
総参加者数に計上する小中学生・教員	825

令和 6 年度
白石市総合防災訓練の課題等について
(地区本部・指定避難所)

白石西地区本部

◎白石第一小学校体育館

<自主防災組織から>

- ・段ボールベッド、パーテーション、マンホールトイレについては設置・組立だけでなく使用・利用方法の説明まですると良いと思う。実際の一連の流れに沿った訓練が必要である。
- ・市全体で実施する6月の防災訓練は地震・火災を想定した訓練を中心にして毎年基本パターンによる訓練にした方が良いと思う。(反省点は改善し、基本的な避難の仕方は徹底できる。)
- ・今回の新しい試み(小中学生の参加・シェイクアウト訓練・ヘリコプターの救助訓練の見学など)は良かったと思う。
- ・中学生の参加は良かったと思う。地区の中学生を把握できた。
- ・指定避難所の体験で各地区ごとに段ボールベッドの組立体験が一斉にできたのは良かったと思う。(今までは見てるだけの人ほとんど)
- ・「女性にやさしい」避難所をテーマに防災訓練をしてほしい。例えば女性用のスペース、乳幼児を持つ母親のスペース、トイレなど、女性が安心して避難できるスペースであってほしい。長期間避難しなければならない場合に必要不可欠な問題だと思う。
- ・中学生が一生懸命であった。今後も参加して地域住民との繋がり、共助、防災意識の向上に資すると思います。
- ・受付が3～4カ所あったが、自治会としてまとまってという意識があったのか一カ所だけに並んで時間がかかっていた。声がけして他の受付へ誘導しても良かったのではないか。
- ・一小は11自治会の避難場所に指定されているが、いざという時の容量的に感染症等考慮して避難生活は大丈夫なのだろうか。
- ・開会時(運営訓練時)の消防団の説明時間が長かった。
- ・当自治会担当訓練のマンホールトイレの設置は1基のみできたが、時間がなかったので井戸水の設置は割愛せざるを得なかった。それでも中学生の若い力で完成出来ました。
- ・体育館内での段ボールベッドの設置については中学生の協力でスムーズに組立てられて良かった。
- ・今回の訓練の中学生の参加は、自治会内でもたいへん好評だったし、今後の継続も期待する声が多かった。

<避難所担当から>

- ・実施計画において、中学生の積極的な活用とあったが、第一小学校区の中学生は50人以上もいるため、その対応に苦慮した。避難者受け入れ訓練中、中学生に指示を

出し、受付をさせたり、人見知りしそうな生徒には備品を運ばせたり、手が空いた生徒には出入口に並んでもらって避難者へ挨拶をしてもらった。

- ・ただし、50人以上の中学生、児童300人以上の小学生、150人以上も来た避難者の対応について、訓練場所の小学校体育館ではスペースが狭い。さらに訓練時間が短く、想定になかったマスコミ対応があり、市職員の人数が少ないこともあって、予定していた訓練ができなかった。地域住民の避難訓練と、小中学生の学習体験を両立することは難しい。一部の避難者からも、例年の訓練ができないことに、非難された。

◎白石第二小学校体育館

<自治会からの意見>

- ・小・中学生の参加で実施されたことは防災への底辺拡大としては意義のある訓練だったと思います。しかし、限りある時間内での訓練で本来自治会がすべき地区民からの被害状況報告や自治会が知りたい地区内のいろいろな情報伝達訓練がうまく出来なかったことは反省すべきと思っております。来年はもう少し時間配分と小学生の参加のあり方を一考する必要があるのではないかと思います。

<避難所担当から>

自治会からの意見（感想）として、

- ・段ボールベットに記載してある文字が見えにくい。
 - ・今年は小学生も多数参加したが、イベント的な感じになってしまい、地区からの参加者にとっては防災訓練を実施したという実感が正直なかった。
 - ・中学生は体力もあり、発災時に戦力になると感じた。
- という声があった。

◎白石中学校体育館

<自主防災組織から>

- ・少子高齢化、年々参加人員減少の中、中学生に参加いただき大変助かりました。若い学生さんたちの力を借り、とても良かったと感じております。意識向上のためにも超高齢化社会のためにも今後も参加させるべきと思われます。地域に密着することはとても良い事と感じます。中学生の皆さんありがとう。

<避難所担当から>

- ・本避難所の開錠等は、白石中学校業務員に行っていただいているが、業務員が参集できない場合の鍵の管理について、対応策を決めておく必要がある。（土日・時間外は、教職員が鍵の開錠等はできない。）

- ・避難所は中学校であるが、避難施設は、体育館なのか・武道場なのか・両方なのかの整理と、各施設の鍵の管理について再確認する必要がある。(避難所運営上は、武道場を避難場所としている。)
- ・備品の保管場所が足りない。また、中学生が使用する武道場内に保管しているため、備品が所在不明となる要因に繋がっていると推測する。(実際にコードドラムは中学校で使用されていた。) また、同様に備品の破損等のリスクがあると考えます。
- ・自治会からの要望で、避難所入り口付近の段差(テニスコート付近駐車場から武道場前までの段差)を解消するよう要望がありました。要支援者をリヤカーに乗せて避難所に乗り入れするとの想定では支障があるとのこと。そもそもの避難時の誘導経路を整理の上、現地確認及び修復の必要性の検証と、施設所管課との協議お願いいたします。
- ・自治会の方針では、一時避難所は場所も悪い(効率が悪い)ため指定避難所に直接参集する訓練を基本としている様子でした。
- ・自治会以外の各団体からは、当日の参加者数の報告はなく、参加者名簿等の提供もありませんでした。(避難所担当職員では、誰が何人参加しているかを把握する手段がないため、集計はしておりません。) 集計・報告の必要がある場合(難所運営委員名簿も同様)は、事前に各団体から報告されるよう危機管理課において周知願います。

◎白石高等学校体育館

<自主防災組織から>

- ・中学校としての参加は、どの程度成果・メリットが得られるのか。各学校での訓練で十分ではないのか。
- ・防災訓練の参加人数は避難所に行った人数ではなく安否確認フラッグを掲げた数で良いのでは。
- ・防災訓練の中の「避難所開設訓練」について、初心(平成26、27年頃)に戻り内容を再検討して頂きたい。避難所運営体制の各班業務についての訓練を、一項目でも実施するようお願いしていたのですが実施されませんでした。自治会役員の中からもなぜ実施されなかったかと意見があり、検討をお願いいたします。
- ・今回の訓練では児童生徒たちは登校となりましたが、訓練想定が8:00と登校の時間と重なりました。自分はボランティアで児童の見守りをしていますが、登校・下校時に避難が必要な大きな地震があった場合はどのようにすれば良いのでしょうか?学校へ向かわせるか、自宅へ帰すか、近くの避難所へ向かわせるか、市としては学校側と調整済みなののでしょうか、教えてください。

<避難所担当から>

- ・白石高等学校への配置市職員数は「5」。実際の災害発生時は、白石高等学校を避難

所として開設するか否かは、その時々で適宜判断されると思うが、自治会規模を考慮すると厳しい人数である。実際に本年は1名が訓練欠席となり、非常に難しい避難所運営（訓練）となった。

- ・訓練においては、白石高等学校体育館は原則スリッパ禁止のため、6枚のブルーシートを敷設して対応した。今回は、来場者98人に対して、簡単な概要説明と、段ボールベッド1台の見本設営で終わったため間に合ったが、来年度以降、今回のように訓練当日に30分～40分程度の時間を要する指定任意訓練がないのであれば、最低8枚のブルーシートを敷設する必要がある。
- ・「多数の住民が来場する」と想定される場合には、避難者受入訓練に相当の人数を割くことが必要となるため、備蓄品の確認は、訓練実施前に終わらせておく必要がある。
- ・今回、白石高等学校には98人の住民が来場したが、受付に当たっては、自治会長が持参した一時避難場所の名簿を活用する必要がある。一時避難場所名簿がない場合、受付に相当の時間を要するため、多数の住民が来場する場合に備えて、普段から自治会との連携を取っておく必要があると強く感じた。「指定避難所に直接来場する住民」と受付を分ける等々、方策を考えておく必要がある。
- ・自治会長(滝下)より、「実際の地震の際、震度6以上であれば、すべての避難所は開放されるべきである（屋内に危険があれば屋外の車中泊やテント設置で対応）」との声があった。
- ・訓練参加者から段ボールベッドは、高齢者のことを考えるともう少し高い方が良いのではとの意見があった。

白石東地区本部

◎中央公民館

<自主防災組織から>

- ・当地区は高齢化が著しく、小中学生は10人程。一時避難としての機能より、安否確認の場なので今回参加した中学生は物足りなく感じたのではないかと思われる。（現状、これが精一杯である）
- ・中学生も一緒に段ボールベッド・パーテーションの組立をやり、良かった。
- ・今年初めて防災訓練に参加した中学生の防災意識を高める為、防災士の講話は自主防災組織の必要性を説明していたが、興味を示した生徒は少なかったように思えた。防災意識を高める為の行動及び考え方を参加者及び生徒に習得できるような講話が望ましかった。（中学生は将来自治会活動の中心的役割を担っていますので）

<避難所担当から>

- ・各地区高齢化が進み、訓練参加の意欲が低く、参加者は減少傾向である。
- ・自治会との打合せ（5月）までにタイムスケジュールを作成しなければならない

め、各指定避難所で行う全体的なスケジュールは、任意訓練や消防団関係も含めて、遅くとも4月中旬までに決定してほしい。自治会では、打合せ後にタイムスケジュールを会員に通知するため、打合せ後のスケジュールの変更や追加は、難しい状況です。

- ・自治会から意見あり。「仮設トイレが2基では対応は無理であり、指定避難所の規模に応じた数を早急に設置すべきである。」
- ・実際に地震等の災害が発生した場合、避難所に割り当てられた職員が何人参集できるか不明であり、今行っている訓練どおりに開設できない可能性が大であるため、訓練方法を再検討する時期に来ていると思われます。

◎白石工業高校体育館

<自主防災組織から>

- ・3月に市の防災訓練の説明会を実施したことで、各地区での総会時にそれらの話が出来たことは大変良かった。来年以降も続けて欲しいものです。自治会の防災力を高めなければと感じた。

<避難所担当から>

- ・今回は247名の参加、前年も202名と、防災意識の高い、参加者数が多い避難所である。今回も白石警察署による出前講座があったため、多人数でも有意義な訓練ができたが、受付や備品設置訓練（ダンボールベッド、パーテーションの設置、簡易トイレ、発電機の始動）ではなかなか人数をさばききれない。次年度以降も他団体と共同で訓練を実施していきたい。

◎鷹巣コミュニティセンター

<避難所担当から>

- ・避難所の対応について、自治会へは各地区打ち合わせ会の際（5月中旬）に訓練のスケジュールなどを決めているため、訓練の内容や方針は早めに決めて連絡してほしい。（それ以後は追加や変更はしないほしい）
- ・毎回実施している設置訓練だけではなく、任意訓練があったのでマンネリ化した内容にならず良かった。出来れば毎年何か任意訓練を実施したい。

◎ホワイトキューブ（本年度は東中学校で開催）

<自主防災組織から>

- ・暑い中、東中の長い坂や70段近い階段など移動は大変だったが良い経験になったとの話が出た。

- ・一時避難所から中学生も参加し避難訓練を行った。自分たちも中学生も互いに初めてのことなので、コミュニケーションを取るのが難しかったが、避難中は荷物の運搬など声掛けすれば率先して手伝ってくれた。

<避難所担当から>

- ・訓練会場が東中学校だったこともあり、地区民の方に協力いただき実施することができた。
- ・自衛隊の輸送訓練が実施されたが、訓練予定時間より大幅に早く来てしまい、なおかつ輸送後にはすぐに撤収してしまったので、多くの中学生や市民が居たので、自衛隊側からも多少なりとも災害時の取り組み、普段の自衛隊の活動の説明などもあっても良かったと感じた。
- ・自治会毎に訓練への取り組み差が大きい傾向がある。
- ・自治会からは自治会加入率が低下してきており、これまで通りの訓練で実際に対応できるか不安だという意見もあった。

◎スポーツセンター

<避難所担当から>

- ・地域住民の参加が少なかったものの、中学生の参加により非常に活気づいた。

越河地区本部（訓練場所：越河公民館）

<自主防災組織から>

- ・有事の際、第一報を受け入れる窓口を常時解説しておくことが必要。今回、当該区民の無事を確認できてすぐ、本部のある越河公民館の固定電話に発信したが出ず、避難所開設の準備で事務室が不在になったことが原因かと思われます。固定電話ではなく可動電話が望ましい。
- ・今年度は小中学生の参加があり、地区内は高齢化が進んでおり地域の若者の参加は嬉しい事です。積極的に段ボールベッド、テント設置の訓練に参加していて頼もしさを感じました。
- ・中学生によるドローン操作を見学出来て、とても有意義でした。
- ・小中学生も参加しての訓練は良かった。段ボールベッドの作製や避難所用テントの作り方など一生懸命取り組んでいた。中学生はドローンの操作も経験していた。

<避難所担当から>

- ・自主防災組織の方々是对応に慣れており、特に問題はなかった。
- ・災害時を想定した越河地区上空からの貴重な鮮明映像を見ることができて、ドローンの映像伝達活用を参加者が体験できた。また講師の東日本ICT推進協議会の皆

様のご厚意により、訓練に参加した中学生全員がドローン操作を体験学習することができて、更に良い訓練となった。

- ・課題であった「図書館勤務職員の防災訓練への参加」が今回も出来たので、良かった。
- ・越河小学校のMCA無線機を職員室から体育館に移動し、5分程度の通信訓練で使用したが、バッテリーの劣化若しくはバッテリー内蔵電源装置のスイッチが切れていたか、バッテリー内蔵電源装置のコンセントが外れていたか等の原因により、バッテリーの充電量が無くなっており、通信訓練に支障が出た。災害時を想定した今回の訓練により、平常時には気付けないMCA無線機の管理（自主点検も含む）に必要な情報の共有と周知の大切さが分かった。人事異動もあるので、市職員だけでなく、MCA無線機の全ての設置施設へ最低年1回の管理等の最新情報の周知と自主点検の実施が必要であると思われる。
- ・MCA無線機の操作が最初、うまく行かなかった。年1回の防災訓練のため、前回うまく行っても操作方法の勘違いもあり、今回も大丈夫だと思っても、危機管理課が行うMCA無線機操作の勉強会等で市職員は、操作の再確認をした方が良いと感じた。また越河公民館にある「登録名・個別番号 相関表」が古いものだったので、災害時を想定した今回の訓練により、平常時には気付けないMCA無線機の管理（自主点検も含む）に必要な情報の共有と周知の大切さも分かった。人事異動もあるので、市職員だけでなく、MCA無線機の全ての設置施設への管理・操作等の最新情報の周知と、必要があれば操作確認・研修も必要であると思われる。
- ・市職員と運営委員も含めた訓練当日の参加者の万一の事故等の基本対応マニュアル（手順等）を作成し、情報を共有した方が良いと思われる。
- ・市職員の前日の急な体調不良者等の基本対応マニュアル（手順等）を作成し、情報を共有した方が良いと思われる。
- ・各自治会の一時避難場所の避難人数確認等の訓練時の対応は、人の配置等の対応可能な自治会のみで行っていただいているのが現状である。
- ・有事の際は、直接、指定避難所に車で来て避難する住民が多くなると思うが、防災マップに示されている一時避難場所についても、各自治会で対応手順や対応想定等を考え、事前に住民への周知をしていないと、高齢者・障がい者等の一時避難場所を必要とする方々に全く対応出来ない状況になると思う。

齋川地区本部（訓練場所：旧齋川小学校）

<自主防災組織から>

- ・救護班の設置が必要ではないか。訓練開始の挨拶を行っている最中に気分を悪くされた方がいて床に横になりましたが、毛布も無いようでした。容体を確認しながら周囲の方が声を掛けていましたが、体を動かしてよいものか、素人判断では人命に係わる場合もあり、危険を感じました。

- ・避難所運営委員の当日の業務内容が分担どおり上手く稼働していなかった。「班長が点呼を行い、業務の指示を出す・・・」など、動きを見えるようにすべきと感じました。
- ・避難所運営委員のビブスの着用が必要。
- ・中学生が活動に参加したことで、地区住民と話し交流が図られ、斎川地区の様子を見てもらうことができ、良かったです。炊き出しで、おにぎり・汁物の配布など声を掛けながら対応していて良かったです。災害時は、温かい食べ物と温かい声掛けが一番気持ちを癒してくれると思います。
- ・汁物の具材が野菜だけで、常に畑や台所にあるものを使っていたので参考にしたいと思いました。
- ・各家庭では避難訓練の重要性は理解していると思うが、参加者の顔触れはほぼ毎年同じであり、このような訓練で良いものかと考えさせられてしまう。
- ・一時避難所までの訓練は市として統一して実施したと思うので、他地区の訓練状況や参加率等をもとに今後の訓練へ活かせるような配慮をお願いします。
- ・各自治会長へは何年か前にヘルメットが貸与されていますが、市職員はオレンジベストを着用していますが誰もヘルメットを被っていませんでした。市財政の関りもあるかと思いますがぜひ着用して訓練へ臨んで欲しいと思います。
- ・年々高齢化が進み、避難所まで参加する人が少なくなっている。このような状況が続けば、避難所開設が難しくなり、支障を来すことになる。30～50代の現役世代を参加させる対策を早急に検討していく必要がある。
- ・今回の訓練で出された意見、要望等について、各避難所ごとに取りまとめた上で各地区にフィードバックしてほしい。
- ・今回の斎川地区の防災訓練で男性（1名）が軽熱中症で倒れました。参加者の中に看護師さんがおられ、処置をしていただき事無きを得ました。今後については各会場に看護師さんを配置した方が良いと思いました。
- ・大勢集まったので訓練だったので声が聞こえにくい状況でしたので、マイクが必要ではないかと思いました。

<避難所担当から>

- ・訓練開始前に具合が悪くなった高齢者1名有り。(貧血のような症状で、落ち着いてから自分で車を運転し帰宅) 高齢者も多い地区のため、次回は血圧計の準備やパイプ椅子を出しておくことも検討。
- ・自治会長より、市職員のヘルメット着用について指摘を受ける。

大平地区本部（訓練場所：大平公民館）

<自主防災組織から>

- ・中学生による避難所開設訓練、段ボールベッド組立て、簡易トイレ・パーテーション

ン設営・格納など、意欲的に取り組んでいた。来年度以降も参加して地域との結びつきも深めると良い。

- ・市危機管理課と各自治会（自治会長及び役員等）との連絡方法について、SNSによる（デモ）、安否確認や訓練状況報告、公衆回線が使えない場合の連絡方法はどうか。

<避難所担当から>

- ・大平公民館より、災害用ソーラーと蓄電機器が壊れているので、直してほしいとの要望がありました。
- ・大きな混乱はありませんでしたが、小中学校のスケジュールが本番で変更になっている部分が多くあったため、資料が不足したり対応しきれないことがありました。
- ・本地区は、水害時は大平小学校が指定避難所となります。昨年、小学校側から相談があり、教職員は市外から通勤している者が多く、有事の際は参集も遅れる可能性もあることから、職員室にあるMCA無線機の体育館への移動時、校舎（職員室）の合鍵の市職員の取り扱いについて検討してほしい旨、話があったそうです。本地区以外においても学校施設を指定避難所としていることから、全体的な取り扱いを検討する必要があると思います。

大鷹沢地区本部（訓練場所：大鷹沢小学校体育館）

<自主防災組織から>

- ・今年度初めての小中学生を含む参加の避難訓練のようでしたが、パーテーション設置訓練、段ボールベッド組み立て訓練にしても、お互い声掛け、協力するなど防災意識の高揚を図ることが出来たと思います。是非、来年度も参加致したいと思います。（昨年度より、フラッグ取付件数も幾分か多いようです。）
- ・良い訓練でした。ご苦労様でした。
- ・防災に対する関心は高く、訓練に参加する人員は多数なり。
- ・防災時に使用する用品は不足気味。
- ・集合時間が8時30分ということで、一時避難場所での指揮が出来ない。
- ・中学生の参加があったのは良かった。
- ・大鷹沢全体の訓練は、各区の訓練が一段落してから集合する形にしたほうが良い。（例：8：00～9：00 各区の訓練、9：00～10：30 大鷹沢の全体（総合）訓練）
- ・大鷹沢地区防災訓練は、小・中学校の子ども参加で大人と協力することができて良かったと思います。

<避難所担当から>

- ・今回は中学生の参加もあり、全体の参加人数が増えたことから、避難所のキャパシティに余裕が無かった。

- ・中学生の参加があり、外履きを入れるビニールを配るなどを手伝ってもらえた。受付も手伝いとして行ってもらえるよう、次年度以降の作業内容を検討したい。
- ・小学生の参加の際に、5・6年生には中学生と一緒に段ボールベットやパーティションの設置訓練を実施してもらい、作業を真剣に行っていた。
- ・パーティションの片付けに苦勞するため、設置訓練は毎年実施すべきと実感した。
- ・パーティションの収納時に破損が発生（おそらく4年度か5年度時に破損）し、うまく収納できなくなっているものがある。

白川地区本部（訓練場所：白川小学校体育館）

<自主防災組織から>

- ・消防団が実地放水訓練を披露していたようですが、何の説明も無く自主訓練を行っていました。誰が何をしているのか状況を説明する者がいないため、住民としては安全安心できず不安になり残念でした。
- ・自治会内の安否確認訓練終了後、小学校体育館に移動し避難所開設訓練が行われたが、訓練内容が参加者に伝わらず、やや精彩を欠いた内容となった。
- ・一時避難場所から指定避難所まで避難をする流れを確認できたので良かったと思います。今後期待することとして、① 白川地区には3つの指定避難所がありますのでそれぞれの場所の使用について、地区民を区分けしての避難を想定しているのであればそれぞれの場所に避難してみる、② 指定避難所に着いてから、生活スペースに移動するまでの手続き・手順を確認しておきたい。
- ・地区で訓練に時間を取られ、白川小学校での訓練についてイメージを共有しないまま結果的に避難、報告のみで、後は「お客さん」的な関りだったこと、大いに反省しています。次年度は当地区において訓練計画、実施、振り返りを連合会組織を活かす方向で主体的に進めていき、必要に応じ適宜「公助」との連携を図っていくことが大切ではないか、又、それが本来の防災訓練の姿ではと再認識する良い機会となりました。
- ・（父母から）子どもは学校に出す、自らは訓練するのは大変
- ・（地域から）休日・祝日等で子どもが地域にいるときにこそ地区民とともに訓練に関わる好機にすべき。逆にその機会が失われたのではないか。
- ・毎年同じ内容で変化がないのでは。

<避難所担当から>

◎ 中学生の訓練参加についての課題

- ・訓練全般に意欲的に参加してもらった。後片付けなども最後まで協力していただいた。一方で学校側が予定していたより早く訓練が終了したため、やや物足りなく感じたようだ。また、授業の一環としての参加であるため、地区住民としてではなく、学校単位での活動となった。

◎ 地区本部全体課題

- ・久しぶりに白川小学校を会場にしたことで、本部員も避難所となる体育館の構造をはじめ、防災倉庫や体育館内の防災備品の保管場所等を確認することができ、有意義だった。
- ・自主防災組織役員の避難所運営スタッフとして意識にばらつきがあり、地区本部（市役所職員）頼りの傾向がみられた。消防団の活動も市職員の指示待ちだったため、放水演習の開始が遅れてしまった。
- ・小学校が授業日であることから、児童がパーテーションやベッドの組み立てなど訓練の様子を見学でき、防災への意識を高める効果があったと思われるが、一部施設の使用に制限があるなど授業と訓練を並行して行う難しさもあった。
- ・訓練参加者に避難者カードを記入していただくのに、受付が非常に混雑した。受付で記載方法を説明後、記載する場所を別に設けて誘導するなどの方法も検討したい。

福岡地区本部

◎福岡地区本部（福岡公民館）

<自主防災組織から>

- ・昨年に続いて二度目の一時避難所開設であり、大変スムーズに開設できた。今回は中学生が5人の参加と親御さんの参加がありましたが、一般地区民の一時避難所への参加は少なくなっている。自主防災会の役員及びその関係者での一時避難所開設となっている。次回からはもっと一般地区民が参加できるような対応が必要と思われる。市からも一般地区民の避難所への避難訓練参加を呼び掛けていただければと思います。

<避難所担当から>

- ・プロパンガスが減っており、公民館行事などで使用している可能性がある。各指定避難所に対し、使用したら充填するか、または使用しないよう危機管理課より指導してほしい。
- ・公民館職員の対応が非協力的であるように感じた。場所を貸しているという印象を受け、有事の際も公民館職員の許可を得ないと使用できないような雰囲気である。
- ・無線担当より、① 第1報で報告の連絡がない避難所があり、無線連絡に支障があった。訓練スケジュールどおり対応するよう指導してほしい。② 危機管理課の資料（白石市総合防災訓練通信訓練計画1ページ）には第1報の報告に農林振興センターが記載されているが、農林振興センターは直接報告しているので注記または削除してもらいたい。③ 一時避難所の人数のとりまとめは不要と感じる。

【福岡地区本部】

- ・予てから、災害が起きた際に一時避難所から指定避難所へ移動する方が危険との意見が根強く、今年度も各自治会の意向を確認し、福岡小、福岡中、福岡公民館以外

は一時避難所で訓練を実施している。一時避難所に避難するとした自治会においては、今後、物資の供給や連絡手段の確保などの課題があることから、危機管理課において協議、対応いただきたい。

- ・自治会長より、反省会など振り返りの機会がほしいとの意見があった。今後の訓練のあり方を含め、アンケート調査を行うなどして意見の聴取をお願いしたい。

◎福岡小学校体育館

<自主防災組織から>

- ・一時避難場所から指定避難所までの距離が 1.5km～2km ぐらいあったので、高齢者には大変でしたようで、半分は車を利用しました。
- ・防災訓練はそれなりに良かったかなと思います。災害が発生した場合には何かと役に立つと思います。慌てず、訓練が生きると思います。

<避難所担当から>

- ・福小教頭先生より、学校のカギ（控え）を危機管理課または教育委員会に常時設置することを提案された。（発災時に教職員がいない場合、無線機を使用することができないため。）
- ・自治会より避難所運営委委員会のマニュアルを市HPへ掲載するよう提案があった。（訓練では、災害対応マニュアルの該当ページを印刷して配付したが、いつでも誰でも確認できる環境にすることが望ましいとのこと。）
- ・小中学生と自治会が一緒に参加すると、福岡小学校の体育では会場が狭く、避難所開設訓練等をスムーズに実施することは困難であると感じた。

◎福岡中学校体育館

<自主防災組織から>

- ・自治会ごとの訓練もマンネリ化し参加人数も少なくなった。地区全体の総合訓練を実施し、地震・風水害等災害時の対応の訓練も必要な時期では？

<避難所担当から>

- ・300名程の住民に参加いただき、自主防災組織が参加者数を集計してくれたが、参加者多数のため集計に時間を要した。
- ・避難所運営委員会の設置を行い、自治会長、自治会役員と当日の役割分担等話あった。
- ・ダンボールベット、パーテーションの組立は中学生と自治会の役員を中心にグループに分かれて行ったが、参加者数に対してサポートできる職員の人数が少なく大変だった。

- ・福岡中学校は参加者が多く、自主防災組織の意識も高いので、訓練の内容が重要であるが、自治会や学校との事前打合せは時間を要するため、担当者が通常の業務と並行して行うのはとても負担がかかる。
- ・本年は中学生が参加となり、学校との打ち合わせが訓練についてのみにってしまった。災害時の学校施設の開錠や学校の体制まで確認をとることは難しかった。
- ・令和3年度に避難所台帳を避難所担当に情報提供されたが、学校側と共有されておらず、内容も古いため整備が必要と思われる。
- ・300人参加に対して職員5名で、無線や参加者集計、任意訓練、消防団との打ち合わせ等しなければならず、段ボール組立等に從事できる職員がいなかったため、職員の配置についてご配慮願います。

◎総合福祉センター

<自主防災組織から>

- ・自治会に対し、中学生（特に白中に通う生徒）の訓練への参加内容（方法）の説明が不十分であった。
- ・中学生が一時避難所に集合した後に学校行事に向かうことについてはスケジュール内で可能であっても、生徒の避難行動としては無理があると思われます。また、中学校の担当者が地域の状況を把握できていないで、生徒をどこでスクールバスに拾うかの判断が出来ず、保護者との連絡が当日までであったことは、逆の意味で訓練の成果とも思えます。
- ・福岡山間部の防災訓練のあり方については、年間を通じて計画することが必要と思われます。川原子ふれあいセンターから福祉センターまで6kmあることから地域内での訓練が必要と思いますが、消防団は市街地に駆り出されることもあって、連携が取りにくく効果的ではありませんし、地域内事業所についても自治会からの要請だけでは連携が取りにくく、危機管理課としての対応もお願いしたい。

<避難所担当から>

(地区説明会等、訓練前からの指摘事項)

- ・総合福祉センターを指定避難所とする自治会の範囲は広く、避難所への移動時間もかかる。
- ・実際に災害が起きた際に、指定避難所への移動も危険であると、各自治会長の認識も強い。
- ・市への要望としては、危険な非難を強いることより、集会所（一時避難所）で避難生活を行うよう、備品配備をしてはどうか等の意見あり。
- ・また、福岡地区全体の意見として、避難所運営委委員会とはどのような組織を市が考えているのか、また、そのマニュアル等を示されないとしようがない、との意見あり。（危機管理課に同席いただいた地区説明会での意見）

(訓練当日を振り返って)

- ・地区民の避難がないため、災害発生時のイメージをつかむことはできなかった。
- ・市の施設を避難所としているため、シェイクアウト訓練から避難所開設に至る前に、来庁者の避難誘導など開庁時の動きも考慮しなければならないのではと感じたが現状の総合防災訓練の内容とはマッチしていないことに気づくことができた。

深谷地区本部（訓練場所：深谷小学校体育館）

<自主防災組織から>

- ・深谷地区（深谷小学校）の訓練について、多数の住民が参加しているのに見学だけでは不十分です。災害の各事例を踏まえ時間はかかるが「避難所開設－受け入れ－間仕切り、ベッド、トイレ、食事－」等の役割、実践行動がなければ役に立たないと思います。職員と区民一緒にやろう。
- ・一時避難場所（北区コミュニティセンター）について、災害の状況次第で、指定避難所へ移動するのが必ずしも安全とはいえない。一時的な収容はセンターで行える（宿泊・炊き出し等）ので、各地区の状況調査必要。また、北区自主防災会は避難場所の開設－3班11組77世帯の安否確認－センターへの報告－深谷小学校への移動避難を中学生の協力で実施しました。

<避難所担当から>

- ・今年の防災訓練は、市内小中学生も参加したことにより、たくさんの方に訓練に参加していただけた。中学生は、避難所の受付も行っていただき、有意義な訓練となったことと思います。今年の訓練は小学生をメインとした訓練内容であったが、来年以降、もし小中学生が引き続き参加することになれば、小学生・中学生・大人すべての参加者が訓練に少しでも参加できるような内容を検討していかなければならない。
- ・避難所運営委員会の設置については、自主防災組織もまだできていない自治会もあるため、理解いただくのに、時間がかかるであろうが、毎年少しずつ、災害になったらというような内容の話を名簿を作成したのちに、行っていくしかない。
- ・深谷小学校に避難所を開設する場合、危機管理課及び地区担当職員で無線機の所在する職員室のカギを持ち合わせないため、教職員が不在の時間帯に無線機を移動することが困難であり、その間の代替通信手段（ロゴチャット）、公民館からの無線機転用等、平常時から対応策を決めておく必要がある。
- ・ロゴチャットによる深谷地区本部担当職員への連絡は、サイボウズより早く確実に伝達することができ、とても良かった。

小原地区本部（訓練場所：小原小中学校体育館）

<自主防災組織から>

- ・防災訓練は大変有意義な時間でした。しかし残念なことは、9:00～9:30の防災講話に関しては無意義な30分間でした。ただ資料を読むだけでしたので、児童生徒、地区住民の方々に防災意識が向上したか疑問です（不躰な意見で申し訳ございません）。
- ・仮設トイレの便座がなかった。
- ・高齢者、一人暮らしの方の避難誘導に時間がかかる。
- ・降雨量の情報が欲しい。
- ・一時避難場所としてスパッシュランドしろいしを指定しているが現在使用されていないため、今後どのようなところにするかお伺いします。
- ・小原地区体育館にて段ボールベッドを作ったが、小中学生・大人含め組み立てに若干時間を費やした。依って、段ボールに組み立て方の説明になる上、下、前後等の数字や文字を印字してはどうですか。

<避難所担当から>

- ・小原小中学校で訓練を実施したが、実際の初動では、体育館や校舎のカギもなく、小原公民館が避難場所となるため、本番における行動の確認や周知が必要。
- ・小原地区は土砂崩れ等で孤立する可能性があるため、備蓄用の水（小原小中学校）の定期的な交換や一時避難所（集会所等）への配備をお願いしたいという意見があった。
- ・高齢者など説明がうまく伝わらない方もいた。本番ではメガホン等だとさらに聞き取りづらい可能性があるため、説明はできるだけシンプルにする、あるいは運営委員を通じて小規模の集団ごとに伝えるなど工夫したい。

令和 6 年度
白石市総合防災訓練の課題等について
(各課・部門別)

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	避難所開設訓練
【白石工業高校】	記入者	山家大樹
訓練の概要	白石工業避難所の開設訓練を実施。 3自治会に加え白石工業高校生徒、教諭、消防団等総勢247名(うち中学生40名)が訓練に参加した。 訓練内容については下記のとおり。 今年度は白石警察署の出前講座を実施した。	
訓練での課題など	今回は247名の参加、前年も202名と、防災意識の高い、参加者数が多い避難所である。	
	今回も白石警察署による出前講座があったため、多人数でも有意義な訓練ができたが、受付や備品	
	設置訓練(ダンボールベッド、パーテーションの設置、簡易トイレ、発電機の始動)ではなかなか人数	
	をさばききれない。次年度以降も他団体と共同で訓練を実施していきたい。	

	訓練名	令和6年度総合防災訓練(中央公民館)
	記入者	大槻 正樹

訓練の概要	地震を想定した避難所開設に向けた訓練(訓練参加は市職員及び4自治会の住民)。	
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区高齢化が進み、訓練参加の意欲が低く、参加者は減少傾向である。 ・自治会との打合せ(5月)までにタイムスケジュールを作成しなければならないため、各指定避難所で行う全体的なスケジュールは、任意訓練や消防団関係も含めて、遅くとも4月中旬までに決定してほしい。自治会では、打合せ後にタイムスケジュールを会員に通知するため、打合せ後のスケジュールの変更や追加は、難しい状況です。 ・自治会から意見あり。「仮設トイレが2基では対応は無理であり、指定避難所の規模に応じた数を早急に設置すべきである。」 ・実際に地震等の災害が発生した場合、避難所に割り当てられた職員が何人参集できるか不明であり、今行ってる訓練どおりに開設できない可能性が大であるため、訓練方法を再検討する時期に来ていると思われます。 	

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【ホワイトキューブ(東中学校)】		記入者	熊谷祐一
訓練の概要	指定避難所であるホワイトキューブが訓練に使用できないことから、東中学校体育館で実施。3自治会に加えて、同自治会在住の中学生が訓練に参加し、ダンボールベット、パーテーションの設置訓練に参加した。 自衛隊による物資輸送訓練を実施した。		
訓練での課題など	訓練会場が東中学校だったこともあり、地区民の方に協力いただき実施することができた。		
	自衛隊の輸送訓練が実施されたが、訓練予定時間より大幅に早く来てしまい、なおかつ輸送後にはすぐに撤収してしまったので、多くの中学生や市民が居たので、自衛隊側からも多少なりとも災害時の		
	取り組み、普段の自衛隊の活動の説明などもあっても良かったと感じた。		
	自治会毎に訓練への取り組み差が大きい傾向がある。		
	自治会からは自治会加入率が低下してきており、これまで通りの訓練で実際に対応できるか不安だという意見もあった。		

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【スポーツセンター避難所】		記入者	和山 敦子
訓練の概要	地震発生後、速やかに関係職員及び自治会自主防災組織員が指定避難所のスポーツセンターに集合し、施設内の安全確認を実施。物資等の所在を確認後、避難者受け入れの手順や役割を確認(受付、無線、情報掲示板、避難スペースの確保、避難物資提供等)し、避難所設置を本部に連絡。自治会による安否確認連絡訓練を行う。 参加者全員で、段ボールベッド等の組み立て作業を行う。上下水道事業所による給水訓練では、ほぼ全員が体験参加し、給水訓練後に防災訓練を終了した。		
訓練での課題など	地域住民の参加が少なかったものの、中学生の参加により非常に活気づいた。		

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度 白石市総合防災訓練
	記入者	岸野 太一
	【鷹巣地区コミュニティセンター】	
訓練の概要	<p>今回の訓練では中学生が授業として参加することから、段ボールベッド・パーティション・発電機など、見るだけではなく、実際に設置や片付けを体験してもらい、災害時にはどのような設備が使用できるのかを考える機会とした。</p> <p>また、任意訓練として災害映像伝達訓練を行い、(株)テクノシステムによるドローンについての解説や実際にドローンの操縦体験をしてもらった。</p>	
訓練での課題など	<p>① 避難所の対応について、自治会へは各地区打ち合わせの際(5月中旬)に訓練のスケジュールなどを決めているため、訓練の内容や方針は早めに決めて連絡してほしい。(それ以後は追加や変更はしないでほしい)</p>	
	<p>② 毎回実施している設置訓練だけではなく、任意訓練があったのでマンネリ化した内容にならず良かった。出来れば毎年何か任意訓練を実施したい。</p>	

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
	記入者	澁谷 純一
	【白石第一小学校】	
訓練の概要	<p>避難所の設置について、避難者の受け入れ動線を確認するとともに、避難所内で使用する備品（段ボールベッド、照明機材、災害用電話機、マンホールトイレ）の設営、備蓄食料配布訓練を行った。</p> <p>さらには、小中学生の防災学習に協力、地域の安全を担う消防団の紹介、ヘリコプター救助訓練を行い、地域住民の防災意識の向上を図った。</p>	
訓練での課題など	<p>実施計画において、中学生の積極的な活用とあったが、第一小学校区の中学生は50人以上もいるため、その対応に苦慮した。避難者受け入れ訓練中、中学生に指示を出し、受付をさせたり、人見知りしそうな生徒には備品を運ばせたり、手が空いた生徒には出入口に並んでもらって避難者へ挨拶をしてもらった。</p>	
	<p>ただし、50人以上の中学生、児童300人以上の小学生、150人以上も来た避難者の対応について、訓練場所の小学校体育館ではスペースが狭い。さらに訓練時間が短く、想定になかったマスコミ対応があり、市職員の人数が少ないこともあって、予定していた訓練ができなかった。地域住民の避難訓練と、小中学生の学習体験を両立することは難しい。一部の避難者からも、例年の訓練ができないことに、非難された。</p>	

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【白石第二小学校】	記入者	中澤 千枝子
訓練の概要	午前8時震度6弱の地震発生と共に、市職員は危機管理体制に基づき指定避難所へ参集。施設管理を行う学校教職員と協力し施設の安全確認を行うとともに避難所の開設にあたる。開設後、一時避難所から避難してきた方々を受入訓練することから始まり、無線訓練、パーテーション設置訓練、段ボールベッド設置訓練を自治会、教職員、地区に居住する中学生、白二小6年生と共に行った。また、地元の消防団員の紹介を行った。	
訓練での課題など	話し合った反省点、要望等について	
	○自治会からの意見	
	・段ボールベッドに記載してある文字が見えにくい。	
	・今年は小学生も多数参加したが、イベント的な感じになってしまい、地区からの参加者にとっては防災訓練を実施したという実感が正直なかった。	
	・中学生は体力もあり、発災時に戦力になると感じた。	

	訓練名	令和6年度 白石市総合防災訓練
【白石中学校】	記入者	斎藤 明
訓練の概要	実施計画に基づき、シェイクアウト訓練(各自)、安否確認訓練(フラッグを活用した訓練)、避難行動要支援者安否確認訓練、住民避難訓練(自宅～指定避難所)、指定避難所開設準備・開設・運営訓練、自衛隊による給水訓練のほか消防団員の紹介を行った。	
訓練での課題など	・本避難所の開錠等は、白石中学校業務員に行っているが、業務員が参集できない場合の鍵の管理について、対応策を決めておく必要がある。(土日・時間外は、教職員が鍵の開錠等はできない。)	
	・避難所は中学校であるが、避難施設は、体育館なのか・武道場なのか・両方なのかの整理と、各施設の鍵の管理について再確認する必要がある。(避難所運営上は、武道場を避難場所としている。)	
	・備品の保管場所が足りない。また、中学生が使用する武道場内に保管しているため、備品が所在不明となる要因に繋がっていると推測する。(実際にコードドラムは中学校で使用されていた。)また、同様に備品の破損等のリスクがある	
	・自治会からの要望で、避難所入り口付近の段差(テニスコート付近駐車場から武道場前までの段差)を解消するよう要望がありました。要支援者をリヤカーに乗せて避難所に乗り入れするとの想定では支障があるとのこと。そもそも避難時の誘導経路を整理の上、現地確認及び修復の必要性の検証と、施設所管課との協議お願いいたします。	
	・自治会の方針では、一時避難所は場所も悪い(効率が悪い)ため指定避難所に直接参集する訓練を基本としている様子でした。	
	・自治会以外の各団体からは、当日の参加者数の報告はなく、参加者名簿等の提供もありませんでした。(避難所担当職員では、誰が何人参加しているかを把握する手段がないため、集計はしておりません。)集計・報告の必要がある場合(難所運営委員名簿も同様)は、事前に各団体から報告されるよう危機管理課において周知願います。	

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
	記入者	山田 裕介
	【白石高等学校避難所(白石西地区)】	
訓練の概要	<p>令和6年6月9日午前8時に震度6弱の地震が発生したとの想定で訓練を実施した。市職員と白石高等学校職員による避難所開設準備の後、4自治会(自主防災組織)から98人の住民が来場。避難者受入訓練、情報伝達訓練、避難所運営体制等の説明、備蓄品を活用した訓練などを行った。その後、指定任意訓練として、気象庁仙台管区気象台による講話「地震・津波の情報とその活用について」を実施し、最後に備蓄品食糧配付訓練の一環として、水とアルファ米を来場者に配布した。</p>	
訓練の課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・白石高等学校への配置市職員数は「5」。実際の災害発生時は、白石高等学校を避難所として開設するか否かは、その時々で適宜判断されると思うが、自治会規模を考慮すると厳しい人数である。実際に本年は1名が訓練欠席となり、非常に難しい避難所運営(訓練)となった。 ・訓練においては、白石高等学校体育館は原則スリッパ禁止のため、6枚のブルーシートを敷設して対応した。今回は、来場者98人に対して、簡単な概要説明と、段ボールベッド1台の見本設営で終わったため間に合ったが、来年度以降、今回のように訓練当日に30分～40分程度の時間を要する指定任意訓練がないのであれば、最低8枚のブルーシートを敷設する必要がある。 ・「多数の住民が来場する」と想定される場合には、避難者受入訓練に相当の人数を割くことが必要となるため、備蓄品の確認は、訓練実施前に終わらせておく必要がある。 ・今回、白石高等学校には98人の住民が来場したが、受付に当たっては、自治会長が持参した一時避難場所の名簿を活用する必要がある。一時避難場所名簿がない場合、受付に相当の時間を要するため、多数の住民が来場する場合に備えて、普段から自治会との連携を取っておく必要があると強く感じた。「指定避難所に直接来場する住民」と受付を分ける等々、方策を考えておく必要がある。 ・自治会長(滝下)より、「実際の地震の際、震度6以上であれば、すべての避難所は開放されるべきである(屋内に危険があれば屋外の車中泊やテント設置で対応)」との声があった。 ・訓練参加者から段ボールベッドは、高齢者のことを考えるともう少し高い方が良いのではとの意見があった。 	

令和6年度総合防災訓練報告書

訓練名	令和6年度総合防災訓練
記入者	小野 輝彦

【越河地区】

訓練概要	<ul style="list-style-type: none"> ① シェイクアウト訓練(各自実施) ② 避難所安全確認訓練(越河公民館の開錠と安全確認) ③ 避難者受入訓練(避難者カード(名簿)作成等) ④ 安否確認フラッグ活用訓練・報告訓練 ⑤ 一時避難者名簿報告訓練 ⑥ 協力機関による訓練「災害映像伝達訓練(東日本ICT推進協議会:ドローン)」 ⑦ 避難所生活体験訓練(パーティーション、プライベートテント、段ボールベッド、簡易トイレ・ワンタッチテントの設置訓練) ⑧ 夜間想定訓練と土のう作成訓練 ⑨ 備蓄食料配布訓練 ⑩ 受入手順確認等の訓練(市職員のみ)
訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の方々は対応に慣れており、特に問題はなかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時を想定した越河地区上空からの貴重な鮮明映像を見ることができて、ドローンの映像伝達活用を参加者が体験できた。また講師の東日本ICT推進協議会の皆様のご厚意により、訓練に参加した中学生全員がドローン操作を体験学習することができて、更に良い訓練となった。 ・課題であった「図書館勤務職員の防災訓練への参加」が今回も出来たので、良かった。 ・越河小学校のMCA無線機を職員室から体育館に移動し、5分程度の通信訓練で使用したが、バッテリーの劣化若しくはバッテリー内蔵電源装置のスイッチが切れていたか、バッテリー内蔵電源装置のコンセントが外れていたか等の原因により、バッテリーの充電量が無くなっており、通信訓練に支障が出た。災害時を想定した今回の訓練により、平常時には気付けないMCA無線機の管理(自主点検も含む)に必要な情報の共有と周知の大切さが分かった。人事異動もあるので、市職員だけでなく、MCA無線機の全ての設置施設へ最低年1回の管理等の最新情報の周知と自主点検の実施が必要であると思われる。 ・MCA無線機の操作が最初、うまく行かなかった。年1回の防災訓練のため、前回うまく行っても操作方法の勘違いもあり、今回も大丈夫だと思っても、危機管理課が行うMCA無線機操作の勉強会等で市職員は、操作の再確認をした方が良いと感じた。また越河公民館にある「登録名・個別番号 相関表」が古いものだったので、災害時を想定した今回の訓練により、平常時には気付けないMCA無線機の管理(自主点検も含む)に必要な情報の共有と周知の大切さも分かった。人事異動もあるので、市職員だけでなく、MCA無線機の全ての設置施設への管理・操作等の最新情報の周知と、必要があれば操作確認・研修も必要であると思われる。 ・市職員と運営委員も含めた訓練当日の参加者の万一の事故等の基本対応マニュアル(手順等)を作成し、情報を共有した方が良いと思われる。 ・市職員の前日の急な体調不良者等の基本対応マニュアル(手順等)を作成し、情報を共有した方が良いと思われる。
など	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の一時避難場所の避難人数確認等の訓練時の対応は、人の配置等の対応可能な自治会のみで行っていただいているのが現状である。 ・有事の際は、直接、指定避難所に車で来て避難する住民が多くなると思うが、防災マップに示されている一時避難場所についても、各自治会で対応手順や対応想定等を考え、事前に住民への周知をしていないと、高齢者・障がい者等の一時避難場所を必要とする方々に全く対応出来ない状況になると思う。

令和6年度総合防災訓練報告書

【齋川地区】		訓練名	令和6年度白石市総合防災訓練
		記入者	佐久間 詳子
訓練の概要	震度6弱の地震が発生したとの想定に基づき、齋川地区担当職員は指定避難所(旧齋川小学校)に参集し、自主防災会組織などで構成された避難所運営委員会と連携し、「炊き出し訓練」や「施設衛生訓練」等を実施した。		
訓練での課題など	・訓練開始前に具合が悪くなった高齢者1名有り。(貧血のような症状で、落ち着いてから自分で車を運転し帰宅)高齢者も多い地区のため、次回は血圧計の準備やパイプ椅子を出しておくことも検討。		
	・自治会長より、市職員のヘルメット着用について指摘を受ける。		
【大平地区】		訓練名	令和6年度総合防災訓練
		記入者	佐藤 美香
訓練の概要	震度6弱の地震が発生したと想定し、自治会を中心としたシェイクアウト・一時避難所への避難訓練後に指定避難所(大平小学校)に参集し、避難所開設・運営、備品組み立てを中心とした訓練を実施。また、任意訓練として、宮城県防災砂防課の講話を小中学生も一緒に視聴した。 1. 安否確認フラッグ活用訓練 避難所安全確認訓練 2. 小中学生による一時避難所等への訓練参加 3. 避難所開設訓練 4. 情報受伝達訓練 5. 運営組織訓練 6. 備品組立訓練 7. 宮城県防災砂防課による講話		
訓練での課題など	・大平公民館より、災害用ソーラーと蓄電機器が壊れているので、直してほしいとの要望がありました。		
	・大きな混乱はありませんでしたが、小中学校のスケジュールが本番で変更になっている部分が多かったため、資料が不足したり対応しきれないことがありました。		
	・本地区は、水害時は大平小学校が指定避難所となります。昨年、小学校側から相談があり、教職員は市外から通勤している者が多く、有事の際は参集も遅れる可能性もあることから、職員室にあるMCA無線機の体育館への移動時、校舎(職員室)の合鍵の市職員の取り扱いについて検討してほしい旨、話があったそうです。本地区以外においても学校施設を指定避難所としていることから、全体的な取り扱いを検討する必要があると思います。		

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【大鷹沢地区】	記入者	税務課 山家 さおり
訓練の概要	大鷹沢小学校において、施設安全確認訓練・情報伝達訓練を実施するほか、自主防災連合会役員と連携して避難所開設・運営マニュアルの確認及び避難所開設準備訓練（避難者の受付と受入手順及びパーティション・段ボールベッド・簡易トイレの組立・発電機及びバルーン照明点灯訓練及び大鷹沢地区消防団の放水訓練、白石消防署員による講話）を実施した。	
訓練での課題など	・今回は中学生の参加もあり、全体の参加人数が増えたことから、避難所のキャパシティに余裕が無かつ	
	・中学生の参加があり、外履きを入れるビニールを配るなどを手伝ってもらえた。受付も手伝いとして行ってもらえるよう、次年度以降の作業内容を検討したい。	
	・小学生の参加の際に、5、6年生には中学生と一緒に段ボールベットとやパーティションの設置訓練を実施してもらい、作業を真剣に行っていた。	
	・パーティションの片付けに苦勞するため、設置訓練は毎年実施すべきと実感した。	
	・パーティションの収納時に破損が発生（おそらく4年度か5年度時に破損）し、うまく収納できなくなっているものがある。	

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【白川地区本部白川小学校避難所】	記入者	日下 裕一郎

訓練の概要	令和6年6月9日（日）午前8時に震度6強の地震が発生。午前8時に防災メールにより訓練を開始。白川小学校を指定品所として開設。避難所の開設・運営訓練を実施。白川地区在住の東中学校生徒26人と白石中学校生徒1人が参加した。	
訓練での課題など	◎ 中学生の訓練参加についての課題	
	訓練全般に意欲的に参加してもらった。後片付けなども最後まで協力していただいた。一方で学校側が予定していたより早く訓練が終了したため、やや物足りなく感じたようだ。また、授業の一環としての参加であるため、地区住民としてではなく、学校単位での活動となった。	
	◎ 地区本部全体課題	
	(1) 久しぶりに白川小学校を会場にしたことで、本部員も避難所となる体育館の構造をはじめ、防災倉庫や体育館内の防災備品の保管場所等を確認することができ、有意義だった。	
	(2) 自主防災組織役員の避難所運営スタッフとして意識にばらつきがあり、地区本部（市役所職員）頼りの傾向がみられた。消防団の活動も市職員の指示待ちだったため、放水演習の開始が遅れてしまった。	
	(3) 小学校が授業日であることから、児童がパーティションやベッドの組み立てなど訓練の様子を見学でき、防災への意識を高める効果があったと思われるが、一部施設の使用に制限があるなど授業と訓練を並行して行う難しさもあった。	
	(4) 訓練参加者に避難者カードを記入していただくのに、受付が非常に混雑した。受付で記載方法を説明後、記載する場所を別に設けて誘導するなどの方法も検討したい。	

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【福岡小学校】	記入者	佐藤 広崇
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設受入（受付時、体調、アレルギーなどの聞き取りを行い、特別に配慮が必要な方の受け入れ方について、学校と検討を行った。） ・避難所運営委員会の設置（自治会参加者へ、避難所運営委員会の役割、災害が発災した場合を想定した場合の運営について、説明を行った。） ・避難所開設訓練（小中学生に簡易ベッド、簡易トイレ（トイレ用テント含む）、パーテーションの設営訓練を行った。） ・夜間停電想定での発電機操作訓練（季節・時間帯によって、避難所の状況、職員の状況も変わることを想定して訓練を行った。） ・消防団による放水訓練の見学 		
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・福小教頭先生より、学校のカギ（控え）を危機管理課または教育委員会に常時設置することを提案された。（発災時に教職員がいない場合、無線機を使用することができないため。） ・自治会より避難所運営委委員会のマニュアルを市HPへ掲載するよう提案があった。（訓練では、災害対応マニュアルの該当ページを印刷して配付したが、いつでも誰でも確認できる環境にすることが望ましいとのこと。） ・小中学生と自治会と一緒に参加すると、福岡小学校の体育では会場が狭く、避難所開設訓練等をスムーズに実施することは困難であると感じた。 		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【福岡中学校】	記入者	佐藤 美智子
訓練の概要	<p>300名程の住民に参加いただき、避難所開設、運営訓練を中心に実施した。 任意訓練：セキ宿ダムの概要について（セキ宿ダム管理所） 地区は、シェイクアウト訓練、安否確認フラッグ訓練、避難行動要支援者安否確認訓練、消防団による放水訓練を実施した。</p>		
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・300名程の住民に参加いただき、自主防災組織が参加者数を集計してくれたが、参加者多数のため集計に時間を要した。 ・避難所運営委員会の設置を行い、自治会長、自治会役員と当日の役割分担等話あった。 ・ダンボールベット、パーテーションの組立は中学生と自治会の役員を中心にグループに分かれて行ったが、参加者数に対してサポートできる職員の人数が少なく大変だった。 ・福岡中学校は参加者が多く、自主防災組織の意識も高いので、訓練の内容が重要であるが、自治会や学校との事前打合せは時間を要するため、担当者が通常の業務と並行して行うのはとても負担がかかる。 ・本年は中学生が参加となり、学校との打ち合わせが訓練についてのみになってしまった。災害時の学校施設の開錠や学校の体制まで確認をとることは難しかった。 ・令和3年度に避難所台帳を避難所担当に情報提供されたが、学校側と共有されておらず、内容も古いため整備が必要と思われる。 ・300人参加に対して職員5名で、無線や参加者集計、任意訓練、消防団との打ち合わせ等しなければならず、段ボール組立等に従事できる職員がいなかったため、職員の配置についてご配慮願います。 		

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【福岡公民館】	記入者	室井 奈緒子
訓練の概要	<p>6月9日(日)午前8時に震度6弱の地震が発生したとの想定で担当職員が福岡公民館に集合し、避難所安全確認訓練、避難所開設準備訓練、避難者の受け入れ訓練、避難所生活体験訓練、情報受伝達訓練などを実施した。</p> <p>また、深谷地区を除く福岡地区各自主防災組織(自治会)においては、一時避難訓練、安否確認フラッグ活用訓練、任意による避難行動要支援者への安否確認訓練を実施した。</p>		
訓練での課題など	<p>【福岡公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロパンガスが減っており、公民館行事などで使用している可能性がある。各指定避難所に対し、使用したら充填するか、または使用しないよう危機管理課より指導してほしい。 ・公民館職員の対応が非協力的であるように感じた。場所を貸しているという印象を受け、有事の際も公民館職員の許可を得ないと使用できないような雰囲気である。 ・無線担当より、① 第1報で報告の連絡がない避難所があり、無線連絡に支障があった。訓練スケジュールどおり対応するよう指導してほしい。② 危機管理課の資料(白石市総合防災訓練通信訓練計画1ページ)には第1報の報告に農林振興センターが記載されているが、農林振興センターは直接報告しているので注記または削除してもらいたい。③ 一時避難所の人数のとりまとめは不要と感じる。 <p>【福岡地区本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予めから、災害が起きた際に一時避難所から指定避難所へ移動する方が危険との意見が根強く、今年度も各自治会の意向を確認し、福岡小、福岡中、福岡公民館以外は一時避難所で訓練を実施している。一時避難所に避難する自治会においては、今後、物資の供給や連絡手段の確保などの課題があることから、危機管理課において協議、対応いただきたい。 ・自治会長より、反省会など振り返りの機会がほしいとの意見があった。今後の訓練のあり方を含め、アンケート調査を行うなどして意見の聴取をお願いしたい。 		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【福祉センター】	記入者	日野 将大
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練 ・避難所の開設受 ・防災倉庫や備蓄備品についての説明 ・避難所開設訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・LPG発電機、カバールン、ハロゲンライトの試運転(元ワクチン室から所管替えの大型UPSも使用) ・段ボールベッド、簡易トイレ、パーティションの設営訓練(中学生対象、体験型) 		
訓練での課題など	<p>(地区説明会等、訓練前からの指摘事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合福祉センターを指定避難所とする自治会の範囲は広く、避難所への移動時間もかかる。 ・実際に災害が起きた際に、指定避難所への移動も危険であると、各自治会長の認識も強い。 ・市への要望としては、危険な非難を強いることより、集会所(一時避難所)で避難生活を行うよう、備品配備をしてはどうか等の意見あり。 ・また、福岡地区全体の意見として、避難所運営委委員会とはどのような組織を市が考えているのか、また、そのマニュアル等を示されないとしようがない、との意見あり。(危機管理課に同席いただいた地区説明会での意見) <p>(訓練当日を振り返って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区民の避難がないため、災害発生時のイメージをつかむことはできなかった。 ・市の施設を避難所としているため、シェイクアウト訓練から避難所開設に至る前に、来庁者の避難誘導など開庁時の動きも考慮しなければならないのではと感じたが現状の総合防災訓練の内容とはマッチしていないことに気づくことができた。 		

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度深谷地区避難所開設訓練
【深谷地区】		記入者	相原 宏一
訓練の概要	<p>深谷地区本部(公民館)参集後、深谷小学校において、市職員、深谷公民館職員、深谷小学校教職員による「指定避難所開設・運営訓練」を実施。深谷地区民は、自治会ごとに、安否確認訓練・避難行動支援者安否確認及び一時避難訓練を実施し、自治会役員、小学生(登校日)とその保護者、中学生が深谷小学校体育館に避難。訓練実施後、小学生及び中学生は振り返り学習を行い下校。</p>		
訓練での課題など	<p>・今年の防災訓練は、市内小中学生も参加したことにより、たくさんの方に訓練に参加していただいた。中学生は、避難所の受付も行っていただき、有意義な訓練となったことと思います。今年の訓練は小学生をメインとした訓練内容であったが、来年以降、もし小中学生が引き続き参加することになれば、小学生・中学生・大人すべての参加者が訓練に少しでも参加できるような内容を検討していかなければならない。</p>		
	<p>・避難所運営委員会の設置については、自主防災組織もまだできていない自治会もあるため、理解いただくのに、時間がかかるであろうが、毎年少しずつ、災害になったらというような内容の話を名簿を作成したのちに、行っていくしかない。</p>		
	<p>・深谷小学校に避難所を開設する場合、危機管理課及び地区担当職員で無線機の所在する職員室のカギを持ち合わせないため、教職員が不在の時間帯に無線機を移動することが困難であり、その間の代替通信手段(ログチャット)、公民館からの無線機転用等、平常時から対応策を決めておく必要がある。</p>		
	<p>・ログチャットによる深谷地区本部担当職員への連絡は、サイボウズより早く確実に伝達することができ、とても良かった。</p>		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【小原地区】		記入者	山田 学
訓練の概要	<p>一般の防災訓練は午前8時に震度6弱の地震が発生したとの想定により各種訓練を実施。各自治会では安否確認フラッグや避難行動要支援者の確認を行うとともに一時避難所へ移動し、その後、指定避難所へ参集し、小原小中学校は、通常登校後、8時30分頃から訓練に合流した。主な訓練としては、全員で防災講話を聴講後、備蓄品の組み立てや災害伝言ダイヤルの確認、消防団による放水訓練の見学などを運営委員が中心となり実施した。</p>		
訓練での課題など	<p>・小原小中学校で訓練を実施したが、実際の初動では、体育館や校舎のカギもなく、小原公民館が避難場所となるため、本番における行動の確認や周知が必要。</p>		
	<p>・小原地区は土砂崩れ等で孤立する可能性があるため、備蓄用の水(小原小中学校)の定期的な交換や一時避難所(集会所等)への配備をお願いしたいという意見があった。</p>		
	<p>・高齢者など説明がうまく伝わらない方もいた。本番ではメガホン等だとさらに聞き取りづらい可能性があるため、説明はできるだけシンプルにする、あるいは運営委員を通じて小規模の集団ごとに伝えるなど工夫したい。</p>		

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【総務課 職員安否確認・マニュアル見直し 班】		記入者	課長補佐兼総務係長 三上 健一郎
訓練の概要	<p>防災メール「職員安否確認システム(すぐ参集)」により、災害発生時の職員の安否確認及び避難所等対等施設への参集状況の確認を行った。</p> <p>職員の安否確認及び避難所等の応援要員の際に必要な可能性があることから、ガス式発電機の使用訓練を実施した。文書係において、東日本大震災や令和元年東日本台風での対応を参考に、初動マニュアル等が災害時に即した内容になっているか見直しを行った。</p>		
訓練での課題など	<p>総務課「初動マニュアル」帰宅困難者対策について、主な課題の洗い出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅困難者の発生の有無や人数の把握が可能か。 ・帰宅困難者への支援として「コンビニ、ガソリンスタンド事業者が帰宅途中の者に、トイレや休憩場所、水や食料の提供を行う」とあるが、総務課で各事業者へ連絡することが可能か。等 		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【企画政策課】		記入者	佐藤弘子
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・伝達訓練4人 		
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・MCA無線による情報収集・通信訓練は概ね良好であった。 ・実際の災害時には、無線が込み合ったり、正確な情報の聞き取りが難しいなど、スムーズな連絡体制をとるための工夫の必要性を感じた。 (今年も通信が来なかったり、途切れた避難所にはLogoチャットを活用した。) 		

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
	記入者	志村 芳彦
【デジタル推進課】		
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 地震発生とともに市域全体に停電が発生。 ② ホームページ等の情報発信の手段を確保するためのモバイルルータを広報担当に渡す。 ③ 本庁舎SV室、アテネ室、自家用光ファイバー、自家用柱の破損状況確認。 ④ 自家用発電装置による業務システム稼働用のNW変更を検討。 ⑤ 復電による庁内ネットワーク各拠点の導通確認、内部情報システム、インターネット復旧確認。 ⑥ 業務システムの復旧確認。 	
訓練での課題など	<p>停電時には物理的破損状況以外は確認できないことから、集合場所の本庁舎SV室、アテネSV室の物理的な破損状況の確認後に自家用光ファイバー網の被害状況の調査を優先した。</p> <p>また、報告がLoGoチャットで可能なことから、各ネットワーク機器の稼働状況を一覧で確認できるアテネを待機場所とし、復電後速やかに各ネットワークの市内拠点間の疎通確認を行う構成とした。</p> <p>アテネ内の各通信機器、SVの稼働を確認後、帰庁し基幹業務システムの稼働確認・復旧依頼を行う構成とした。</p>	
	訓練名	令和6年度総合防災訓練
	記入者	管財係 岡崎 敏明
【財政課】		
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・3班体制で、「本庁舎被害状況報告書」により本庁舎、屋外外灯等の被害状況を調査、確認を行う。また、確認結果を財政課長を通じて災害対策本部へ報告する。 ・本庁舎の電気・水道・非常用発電等の設備の再確認を行う。 	
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎設備の設置場所や操作方法、配線など、災害時に迅速に対応するためには人事異動等があっても適切に把握できるようにしておく必要がある。 ・庁舎に大きな被害がある（想定される）場合は、来庁者等の避難誘導や避難場所の検討も必要と思われる。 ・庁舎が使用できない程度の被害が出た場合は、仮庁舎の検討も必要と思われる。 ・夜間から深夜の災害を想定した場合に、被害状況確認のための懐中電灯等の設備が不足していることから、必要な設備を検討し、購入等（危機管理課との連携等）が必要と思われる。 ・電気自動車リーフにはコンセントが付属していないことから、給電を可能とする付属品の購入等が必要と思われる。 ・実際の災害時において、公用車の一括管理がどこまで機能するか課題である（機能しない可能性が高い）。 ・停電が長引いた際、非常用発電（ボイラー）を維持するための重油調達方法を検討しておく必要がある。 ・重油による非常用発電のコンセントは3・4Fには付いていないため、電源の確保がひつようである。また、太陽光発電システムから本庁舎に給電されているか、蓄電池を経由しているか、図面も含めて確認を要する。 ・非常用発電コンセントは場所が限られているため、何を優先してつなぐか、非常用コンセントのない3・4階や各課に供給可能か、確認しておくことも必要ではないか。 	

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【税務課 被災・罹災証明書班】		記入者	鈴木 奈々絵
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害発生後、災害対策本部からの指示により被災・罹災証明書交付の申請受付開始を想定 ① 申請受付について指示シートを作成し、シートを基に申請受付業務体制の確認 ② マイナンバーカードを用いた電子申請(マイナポータル・ロゴフォーム)の動作確認 ③ 受付に使用する端末等の保管場所確認 ④ 受付会場の動線を含むレイアウト確認 		
訓練での課題など	罹災証明書の交付受付には申請者が殺到することが予想されるため、出来るだけスムーズな受付が行えるよう、レイアウトや動線の工夫が必要である。また、家屋の被害を調査・判定できる職員が限られることから、受付業務の手順のマニュアルを整え、受付と調査の役割分担をするなどの人員配置が必要。また、ネットワーク接続も要するため、デジタル推進課の協力も必要不可欠である。		
	現在罹災証明担当は警戒体制時は2名、災害体制時で4名となっているが、実際に災害が発生すれば、固定資産税係は全員罹災証明書交付事務に携わることとなる。市内全域からの申請受付に対応するためにも、防災体制の職員配置については配慮をお願いしたい。		
		訓練名	・福祉施設関係被害状況の確認 ・要支援者の安否確認と支援
【福祉課・総合福祉センター】		記入者	課長補佐 荒生 博幸
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・災害体制に伴う関係職員の参集訓練を実施。 ・総合福祉センターの被害状況を確認し指定避難所として開設。 ・市内福祉施設の被害状況確認と要支援者受入の可否について確認。 ・要支援者の避難状況、安否確認を実施後、移送訓練実施等 		
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止だった市内福祉施設の被害状況確認と要支援者受入の可否確認訓練及び要支援者の避難状況確認を昨年から再開 ・認知症避難者確認のための職員派遣は行わず、福祉センター指定避難所設置。長寿課、地域包括支援センター職員とともに中学生及び先生と、簡易ベッド、パーテーション設置訓練、停電時夜間想定訓練等を実施した。 ・R4.3.16の地震災害時、照明が一つだけで避難所設営に支障をきたしたため、投光器を1台増で配備したが、停電の際に広い館内で、避難者、職員、トイレ等それぞれ照明は必要となり、投光器と懐中電灯のみでは厳しい状況と思われる。今後ランタンなどの配備も検討する。発電機のプロパンガスの残量がどれほどなのか、ガスの充填についても危機管理課に確認が必要。 ・市として実際に避難行動要支援者名簿の使用を想定した訓練も今後検討したい。名簿登載者の福祉避難所移送等。 		

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【健康推進課】		記入者	工藤 悟子
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設(健康センター、介護予防センター)被害状況確認訓練 ・医療機関関係被害状況確認・報告訓練 ・指定避難所のメンタルケア訓練 ・停電時夜間想定訓練 ・避難所開設状況確認訓練 ・避難者数・負傷者等確認訓練 		
訓練で課題など	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康推進課の職員10名(事務職員8名、栄養士2名)が指定避難所に配置されているため、今回も初動期の訓練として実施したが、実際の災害の際に展開期、安定期となり、避難所運営が開始された後の保健師・栄養士の需要を考えると、残された少ない人数での本来の業務の運営について継続が難しいことが予想される。 ● 栄養士は子ども未来課の保育園給食も兼務しているので、指定避難所に配置されると給食供給のために各給食食材納入業者に確認を行う職員がいない。 ● 医師会及び歯科医師会と事務局を通じて連絡訓練を行ったが、実際の災害時における医療機関関係被害状況の確認については、改めて協議していかなければならない。 ● 発電機、投光器、ガスボンベ、各2基を健康センター1階の倉庫に配備。これらを活用し、発電機等の操作訓練を実施(ガスの使用期限が令和6年10月までだったため交換が必要)。また、新型コロナウイルスワクチン集団接種時に使用したUPSの設置場所の確認を行った。 ● 健康センター及び公用車にMCA無線機の配備がないため、今後無線機の配備をどうするか検討が必要である。 		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【病院管理室】		記入者	洞口 繁
訓練の概要	<p>公立刈田総合病院の被害状況確認やMCA無線での情報伝達訓練、健康センター内の蓄電池の保管場所確認、発電機始動訓練を行った。</p>		
訓練で課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者(医療法人仁誠会)との役割分担、連絡調整の具体的手順が不明瞭 ・仁誠会での災害体制が未整備(現状、白石市外二町組合の運用に則している)であり、白石市の災害体制にある程度対応した災害対策マニュアル等の整備が必要 ・刈田病院にある災害対応用資機材の取扱者が限られており、管理・メンテナンスも不十分に見受けられる 		

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【子育て支援課】	記入者	平間 拓磨
訓練の概要	① 子育て支援施設(ふれプラ・キッズランド)の被害・職員参集状況を確認し、各施設はLoGoフォームで子育て支援課に報告。 ② ひこうせん園児の安否について保護者に確認し、子育て支援課に報告。 ③ 子育て支援施設(ふれプラ・キッズランド)の開所判断及び周知。 ④ ひこうせん療育可否の判断。 ⑤ ひこうせん療育可否について保護者等に連絡。		
	訓練での課題など	● LoGoフォームにて施設被害状況をふれあいプラザ、こじゅうろうキッズランド(初)から報告してもらったが、一部報告内容が把握しづらかったため、今後はLoGoフォームの報告内容を調整する。 (フォームを2つ作成し、第1報は回答を被害あり・なし・確認中にし、確認に手が回らず、確認中と回答した場合は、第2報でも被害状況を報告できるようにする。)	
		● 訓練時は停電の設定のため、パソコンは使用できないと想定し、今回からLoGoフォーム・チャットのどちらもスマートフォンで報告・確認を行ったところ問題なくスムーズに報告・確認が行えたため、今後もこの運用で行う。	
		● 財政課に使用しない公用車を預ける際、鍵に公用車の情報がなく、分かりづらかったため、鍵に車名とナンバーを記載する。	

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【商工観光課 産業施設班】	記入者	岩澤 研治
訓練の概要	① 6月9日(日)午前8時に震度6弱の地震が発生したとの想定で、3号災害体制が配備されたとのことから、職員は直ちに本庁に参集した。 ② 所管観光施設の被害状況を確認し、情報伝達訓練を実施した。 ③ 施設休館の周知方法及び関係機関との連携について検討した。		
	訓練での課題など	① 登山者の安否確認については、登山届をもとに、白石スキー場(不忘アザレア)に依頼する必要がある。登山届提出の周知を強化する。	
② 市内事業者の被害状況確認と相談窓口の設置については、商工会議所との連携が不可欠である。			
③ 指定管理施設のカギ保管場所を確認する。			

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【農林課】	記入者	農林課 課長補佐 高橋 由桂
訓練の概要	訓練の想定である震度5弱以上の地震が発生した際に、初動体制が必要となる川原子ダムと農業用ため池の被害確認及びMCA無線機及びLoGoチャットでの報告訓練を実施する。	
訓練での課題など	・農林振興センターの施設の被害状況報告について、危機管理課へ直接報告となっているが、福岡の取りまとめ先にも農林振興センターが入っていた為、福岡のマニュアルから削除が必要。	
	・川原子ダムの被害報告は、初動確認の農林課から担当の建設課へ報告し、建設課から本部へ報告することとなっているが、今年度は本部より農林課へ直接報告を求める無線が入ったため、本部とマニュアルの確認が必要と思われる。	

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【まちづくり推進課 市民バス班】	記入者	まちづくり推進課 木須博之
訓練の概要	6月9日(日)午前8時震度6弱の揺れを観測する地震発生に伴う3号災害体制配備により、職員はただちに本庁(まちづくり推進課)に集合、所管施設の被害状況の確認及び公共交通機関の運行状況の確認訓練を実施した。	
訓練での課題など	今回の訓練では、まちづくり推進課が所管する施設のうち、財団が指定管理者として運営を行っている白石城、ホワイトキューブなどの施設についてロゴフォームを活用し、被災状況報告を行った。迅速に被害状況の確認及び情報共有を図ることが出来た。	
	市民バスが運行している時間帯に災害が発生した場合は、市民バスの運行対策に人手が取られるため、所管施設の状況確認が遅れる恐れがある。	
	危機管理体制のまちづくり推進課の担当に、東北自動車道の運行確認が入っているが、当課では状況を把握することが困難であること、訓練においても建設部長から報告を上げていることから、担当の見直しを検討して欲しい。	

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【市民課】	記入者	菊地 智佳
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合窓口の委託事業者と総合窓口の実施可否の判断訓練を実施 ・住基・戸籍・斎苑予約等のシステムの動作確認や斎苑使用の可否の伝達により、市民課窓口の実施可否判断を行うとともに、戸籍届出受領等の手順確認を実施 	
訓練での課題など		

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【環境課】	記入者	技術主幹 村上 勝昭
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・西倉庫防疫機材・仮置場設置に係る必要物品等確認 ・家庭ごみの収集可否(施設の被害状況、収集運搬業者の人員と車両確認)の検討 ・災害廃棄物処理計画に基づく図上演習、初動対応の確認 ・放射能被害状況確認のため、越河仮置場、モニタリングポスト(仙南最終処分場入口)及び白石市役所の3地点でのNaIシンチレーション式サーベイメーターによる空間放射線量測定を実施。 ・小中学校(学校管理課)および保育園の除染廃棄物埋設保管箇所について担当課で被害状況を確認し、報告を受ける。 	
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ収集について <ul style="list-style-type: none"> ・市内災害地域の集積所確認 ・収集の中止、再開時の周知方法(広報車・メール) ・状況によって臨時の集積所の開設を検討 ○白石斎場の状況を市民課長へ伝達 ○災害廃棄物について <ul style="list-style-type: none"> ・災害の規模やごみの量によつて的確に災害ゴミ仮置場候補地を設置する必要がある ・仮置場で収集する廃棄物の品目を慎重に検討・決定する必要がある(便乗ごみ対策) ○放射性廃棄物について <ul style="list-style-type: none"> ・除染廃棄物仮置場に被害が確認された場合、環境省福島地方環境事務所との連携をとる必要がある。 	

令和6年度総合防災訓練報告書

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【建設課】	記入者	課長補佐 樽見悟郎
訓練の概要	<p>・震度6弱地震災害発生の際、初動体制により市営住宅・道路施設関係の被害状況の確認と応急処置対応伝達訓練を実施。(SIC企業立地推進室と連携)</p> <p>・道路施設調査の中で、市道欠損・亀裂・段差発生及び法面の崩落により、建災協に応援要請伝達訓練の実施。現地状況について無線、LOGOチャットによる写真・位置情報の伝達訓練を実施した。</p>	
訓練での課題など	<p>① 訓練では、事前に打ち合わせを実施したことから「スケジュール」どおりに対応できたが、災害発生時(地震、風雨、大雪等)は時間、気象条件がことなることや、遠方から登庁する職員もいることから、参集した人員で対応することになるため、日常的に無線の点検、使い方の確認を行い、現地での調査方法を皆が理解するため、課内で打合せを行っていく必要があります。</p> <p>② 今年度は道路亀裂・段差及び道路路面陥没による通行止めを想定しましたが、道路の崩落のみならず、山地崩壊・造成宅地崩壊・ため池決壊・河川決壊など、様々なケースによる通行止めなどの現場対応の判断が求められることが想定されるので、どのような状況においても安全を確保するため判断力・対応力の向上に努める必要があります。</p> <p>③ 無線については、車載器との通信訓練を実施し操作の確認を行いました。課内全員が操作できるように努めたいことや、同じく、メール(LOGOチャット機能)での情報共有を図る</p>	

	訓練名	令和6年度総合防災訓練
【都市創造課】	記入者	大野 政昭
訓練の概要	<p>・被害調査、応急対策訓練(公園施設、市営駐車場、大規模盛土造成地) 2班体制 5人</p> <p>・被害調査、応急対策訓練(河川、市道等の各地区調査) 建設課災害調査班と連携 6人</p> <p>・仮設トイレ設置訓練 1人</p>	
訓練での課題など	<p>(被害調査・応急対策訓練)</p> <p>・無線使用について車載器との通信訓練を実施し操作の確認を行ったが、課内全員が常に操作できるようにしていく。</p> <p>・公園等の封鎖対応などのため、バリケード・カラーコーンなどを常時配備しておく必要がある。</p> <p>・実際の災害発生時には、公園等の封鎖対応や道路の通行止対応、さらに土砂の撤去など重機を使用しての対応も求められることから、災害発生時の迅速な対応を図るためにも「災害時における応急対策の協力に関する協定書(H18.10.1)」に基づき、白石市建設関係団体災害対策協議会と関係各課との定期的な情報交換が必要と思われる。</p> <p>(仮設トイレ配備訓練)</p> <p>・「災害時におけるレンタル機材の提供協力等に関する協定書」については、平成18年7月4日締結時のものであることから、随時更新及び見直しが必要と思われる。</p>	

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【会計課】		記入者	会計課 安彦 香織
訓練の概要	無線等による情報の受理を行うとともに、対策本部における状況の記録・掲示を行う。		
訓練での課題など	総務課遠藤主事により、事前に掲示物の内容を更新してもらいましたが、当日掲示されたひな形は古い情報のものでした。有事用に掲示物の予備が準備されていると聞きましたが、情報の更新をお願いいたします。		
		訓練名	令和6年度総合防災訓練
【上下水道事業所】		記入者	村上幸輝
訓練の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・伝達訓練 2人 ・施設調査訓練 8人(職員6人、白石市管工事業協同組合2人参加) ・応急給水訓練 11人(職員6人、第一環境(株)5人参加) 		
訓練での課題など	【情報収集・伝達訓練】		
	・災害現場確認を行う通信訓練の際、依頼側と現場側とで確認すべき施設や場所の認識違いがあるため、伝達方法や確認項目を検討したい。		
	【施設調査訓練】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・現場確認依頼の時、経験のない職員は現場サイドでどんな写真・報告がほしいかが全く分からない場合もあるので、簡単な見本の作成があってもよいと思う。 ・施設の被害報告からどの仕切弁を止める必要があるかなど、判断・指示をするまでのシミュレーションをする訓練ができるとよりリアルな訓練にできると思う。 		
	【応急給水訓練】		
<ul style="list-style-type: none"> ・給水車提供の第一環境(株)の役割、行動が不明瞭であった。応援協定が確実に実施できるよう検討するとよい。 ・訓練では想定したイメージを十分理解(気象状況や道路状況など)して訓令する難しさを感じた。 			

令和6年度総合防災訓練報告書

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【学校管理課】	記入者	大野 栄治
訓練の概要	白石市総合防災訓練(通信訓練計画) ① 施設被害状況確認・職員参集状況報告 ② 避難所開設状況報告 ③ 児童生徒の安否確認状況 ④ 避難訓練終了報告		
訓練での課題など	災害対策本部の訓練スケジュールどおりスムーズに実施できている。 今回のような避難訓練は、全市で実施している訓練イベントであり、実際に起こる災害時の対応方法とは異なることを職員等が理解していないと、有事の際は混乱すると思われる。 訓練中に有事の際に対応することなどを話をしながら訓練対応したが、施設の鍵開け・MCA無線の移動やモードの切り替え等について考え方を確認する必要がある。 例えば、MCA無線について平時は、日々の訓練のため学校内職員室に保管されているが、災害時には避難所である体育館に移動することになっている。学校でも児童生徒の安否確認や建物被災状況確認などで使用する必要があるため、避難所側に移動されてしまうと学校との連絡に支障を来たしてしまう。さらに校舎内に無線機が保管されているため、担当教諭が到着するまでは無線を使用(移動)することが現状では不可能となっている。 また、市民が避難方法を年に一度確認することは有意義と思うが、市職員等の災害対応方法はこれまでの経験を踏まえ、各担当において実務を想定した訓練が必要であると思う。		

		訓練名	令和6年度総合防災訓練
	【こども未来課】	記入者	須井 奈津江
訓練の概要	① 各保育施設等(私立を含む)の施設被害状況、職員の参集状況について、ロゴフォームによりこども未来課へ報告。 ② 園児の安否について、各保育園等から保護者にコドモン等を活用して実施。安否状況をまとめ、ロゴフォームによりこども未来課へ報告。 ③ 私立保育園等への施設被害状況確認依頼等はMCA無線により実施し、ロゴフォームにより報告。 ④ 保育実施の可否について判断。その結果を保育園等から保護者にコドモンを活用して連絡。		
訓練での課題など	<ul style="list-style-type: none"> 施設被害状況報告や、園児の安否状況報告にロゴフォーム、ロゴチャットを活用し、スムーズに状況を把握することができた。 私立保育園等へも防災訓練への参加を呼びかけたところ、1園の参加があった。来年度も、早めに私立への声掛けをするとともに、児童館等へも広く声掛けていきたい。 事前又は当日に、各保育園等の備蓄品や発電機の確認を実施したところ、ガスが空だったり(南保育園)水の消費期限が過ぎていた園(第二幼稚園)があった。 園児の安否確認について訓練を実施する旨、事前に保護者へ連絡をしていたが、訓練当日回答をよこさない保護者もあり、その保護者へは直接電話で確認を行った。 第二幼稚園とは無線テストをしたことがなかったため、今後は、保育と同様、定期的実施していく。 臨時の園長会議を開催し、災害時の安全確認チェックリストや、セコム警備の施錠の仕方などについて、共有を図った。 		

令和6年度総合防災訓練報告書

【図書館】		訓練名	令和6年度総合防災訓練
		記入者	半澤 徹
訓練の概要	・シェイクアウト訓練 ・施設被害状況確認訓練 ・情報伝達訓練		
訓練での課題など	訓練当日は開館日であり、かつ複数の職員が避難所担当になっていることから、開館準備を行いながら限られた人員・限られた時間の中での訓練となった。		
	当日は十分な時間を充てることはできなかったものの、職員間で事前に実際の地震の場合に想定される被害や職員の行動などに対する意見交換を行い、図書館・情報センターに係る防災意識を高めることができた。		
	情報センターには市の施設の他に民間のアニメスタジオがあるが、隣接している第一児童館とともに		
	年に2回、防火訓練を実施しているものの地震を意識したものではなかったため、今後の防火訓練において大きな地震の際の行動などを確認し、防災意識の向上を図ることとしたい。		

令和 6 年度
白石市総合防災訓練の報告・意見等について
(小中学校)

㊦白石第一小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	300 人
教職員数	30 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・避難所の担当責任者の方から、蜜に連絡があったので、当日の流れをしっかりと把握して、当日を迎えることができた。また、準備もスムーズに行うことができた。
- ・人数制限はあったが、6年生が訓練の様子を直接見学できたので、いざという時の心構えが少し芽生えたのではないかと思う。また、実際にダンボールベットの組立を経験できたのも良かったと思う。
- ・中学生が、地域の方と顔合わせができたこと、そして協力しながら活動できたことは、今後に役立っていくと思われる。次年度以降も継続していくことが望まれる。
- ・避難所の活動時間ではあるが「あいさつ」関係は短く「活動関係は長く」時間設定をするとよいと思う。

㊦白石第二小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	519 人
教職員数	33 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・段ボールベットやパーテーションを実際に体験出来て良かった。
- ・災害時の準備の大変さを実感できることができた。
- ・来年も登校日として訓練を行う場合、別の訓練を行った方が児童も興味関心をもって行うことができる。
- ・市内一斉訓練で市民は自分の地区の避難所へ避難する訓練を行った。中学生も自分の地区の避難場所を知る良い機会となるため、そうした内容もとりいれてはどうか
- ・なんとか時間を合わせて、児童も地区の訓練に親子で参加できないか。

㊦越河小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	28 人
教職員数	10 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・特にありません。

㊦大平小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	77 人
教職員数	16 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・各地区の一時避難所へ何名の児童が避難するか、確認しておくにより確実な避難ができる。
- ・道が狭く車で行くことができず、駐車場もない集会所があり一時避難場所には徒歩で非難しなければならない状況もあることを感じた。
- ・職員を各避難所へ配置したので、児童登校時は教室に担任不在の教室もあり、可能ならば各避難所で小学生も受付していただけると助かる。
- ・高学年が避難所開設の様子を見学できたことは、自分たちも力にならないといけないう意識を持たせるために、有意義であった。
- ・小学生が、校庭での地区消防団の訓練を見学できたことは、良かった。

㊦大鷹沢小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	25 人
教職員数	10 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・小学校の計画と市の計画をもう少し早めに提示し合いながら調整できたら良いと思います。今年度初の取り組みということでしたので、今年度の実践が来年度に活かされればもっとスムーズにいくのではないのでしょうか。
- ・災害時の避難所設営ということで、子どもたちは実際倉庫に保管されているパーティションや段ボールベッドなどを体験できて良かったと思います。
- ・災害時のさまざまな場面を想定して、避難所設営シミュレーションや、防災クッキング（ポリ袋炊飯など）、限定された用具を用いての簡易テント作りなど、学校でもできることを考えて取り組んでいきたいと思います。

◎白川小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	37 人
教職員数	9 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・今年度は、教室等で防災学習を行い、その後避難訓練と保護者への引渡しを行いました。
- ・地域の方々が行っている総合防災訓練は避難所の見学と放水訓練の見学のみ実施しました。
- ・東中学校の生徒が避難所開設等に関わっていました。
- ・小中連携での防災教育と合わせて次年度の計画を立案していきたいと思います。

◎福岡小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	133 人
教職員数	16 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・初めてのことなので、次回はもっと市との打ち合わせや具体的な内容の確認が必要

であった。

- ・避難所開設では活動がすぐに終わってしまつた。もう少し体験活動があつてもよかつた。
- ・直前ではなく、もっと前から他校の取り組みなど情報共有する場があつてもよかつた。

◎深谷小学校

1. 参加者数

児童・生徒数	51 人
教職員数	12 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・地域住民と合同で訓練を行ったことにより、地域ぐるみで防災意識をたかめることができた。
- ・見学する時間が長く、子供たちにとっては飽きがあつたように感じた。
- ・学校独自に新聞お皿作りやスリッパ作りを行う活動を行った。
- ・災害時に役立つ体験活動になった。

◎白石中学校

1. 参加者数

児童・生徒数	286 人
教職員数	31 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

【教員のアンケート結果】

- ・自治会の一員として生徒たちの様子をみましたが、自治会の方の指示に従つてしっかりと行動できていたので良かった。その後学校に速やかに移動できていた。積極的に活動する様子が多々見られた。
- ・とても良い取り組みだと思った。事前の準備がものすごく大変だが、価値観のある活動であつた。

- ・今回参観した一小では、かなり有意義な体験ができたと思う。住んでいる地区の訓練の内容をいかに充実させられるのが課題と感じる。また、次年度以降地区によって「訓練内容の充実」や「訓練に対する熱量」の差が出てくることが心配される。「例年通り」「今年もこれでいいか」等は参加する生徒の意欲低下につながる。
- ・実施前に各地区の避難訓練の内容がもっと詳しく分かると良い。学校としては生徒を参加させるために事前指導を充実させたいと考えている。
- ・地域側も小・中学生が楽しめるという視点を大事にしてくれているように感じた。しかし、あくまで地域の防災訓練なので、地域住民と小・中学生と一緒に活動しながら防災意識を高めるような活動を模索していく必要があると考える。
- ・生徒の地区ごとの把握は、学校がすべきものなのか疑問を持った。第一次避難所や指定避難所を知らない生徒・保護者も多数おり、その対応に苦労した。万が一災害が起きた際には、教員ではなく地域で取り組むことになるため、地域が主導する活動でなければならないと感じている。
- ・自治会連合会に入っていない地区の扱いはどうなっていたのか、学校に問い合わせが入り、その対応にも考えさせられる今回の訓練でした。市や自治会が行う防災訓練であれば、そのような細かい対応を学校任せにするのではなく、市や地域で対応していただくと幸いである。

◎福岡中学校

1. 参加者数

児童・生徒数	84 人
教職員数	13 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・スクールバスを平日と同様に手配していただいたので、全校生徒が参加することができたことが良かった。
- ・新型コロナウイルス感染症により、地域の大人と子供の接点が希薄になっていたのが今回、一時避難、指定避難所の避難行動のなかで一緒に行動することができて、改めて地域と学校の連携も深まり良かった。
- ・昨年度から計画が進んでいたことなので、もう少し早い段階で防災主任担当者同士の各校の実施内容や計画について共有できると、更に良い活動になると考える。
- ・一時避難所でも大人と生徒が地区を見守るなど積極的に子どもも訓練に参加させようとする地区があった。一方で、一時避難所を行わない地区もあった。災害時のことを考えると、一時避難の訓練も確実に行った方がよいのではないかと。

㊦小原小中学校

1. 参加者数

児童・生徒数	17 人
教職員数	17 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・今回、市総合防災訓練に参加をさせていただきました。本来であれば、児童・生徒は自分だ住んでいる地区の訓練に参加をするところですが、小原小・中学校の場合は、他市町から登校している児童・生徒もあり、登校日ということから学校に登校して、小原地区の方々との訓練に参加をしました。
- ・事前に訓練内容等について話し合いを行う場を設定していただき、学校の参加対応について理解を得た上で訓練に参加することができました。
- ・最初に講話を聴き、その後の避難所開設のための活動に参加しました。小学校高学年から中学生は実際に体験させていたたき、1～4年生は見学をさせていただきました。その後、小学校では防災訓練の振り返りを行いました。中学校では防災クッキングと振り返りを行いました。こうした取り組みにより防災への意識を高めることができたと思います。
- ・また、地域の方々の細かいご支援のもと、段ボールベット等の設営を地域の方々と一緒に作る等の活動ができたことは、とても意味がありました。こうした経験を自分の地区で生かすことができると考えます。本校にとって今回の訓練は充実したものとなりました。

㊦東中学校

1. 参加者数

児童・生徒数	258 人
教職員数	24 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

<生徒振り返り>

- ・最初の一時避難所では、班ごとに並んだのですが、同じ班の人の名前とかどんな人がいるのかを知ることができたので安心しました。ただし、参加者が少ないと思いました。今後気を付けたいこととしては、備蓄品の準備ができなかったのもので、自分

で調べながら自分で準備していきたいということです。そして、今回の訓練では避難所で何もできなかったのもので、次からは、自分で同じ避難所の人に何ができるかを聞いて行動できるようにしたいです。訓練をおこなうにあたって、いろんな市の人とか消防団員の方がこれだけ準備されているという事を肌で感じたので、感謝しなければいけないなと思いました。

- ・今回、テントやベット、トイレを設置する作業を実際に体験してみて、中学生が主体となって簡易施設を協力したてるのが大切だと思いました。なぜなら、大人は災害救助やほかの力仕事でいないため、小さな力で設置しいち早くお年寄りの方々や、小学生などの小さい子たちを誘導することが大切だとわかったので、もっと早く避難所へ行ってやれること増やし、地域に貢献していきたいと思いました。
- ・今後避難訓練をするときには災害時に危険になりそうな箇所や避難所への最短ルートを考えて避難したいです。
- ・もしかしたらいつかはこういうことが起きるかもしれないから今日やったことを親にも教えられるようになったと思います。
- ・次集まるときは、来年か、本番のどちらかなのかと解散直前に考えた。今後、地域の人たちと積極的にコミュニケーションをとっていざというときに備えたい。
- ・今後、私たちが生きていく中で大きな地震は何度か経験すると思います。そんなときに自分の命や大切な人の命をしっかりと守れるように避難訓練は避難訓練とは思わずしっかりと行っていきたいです。
- ・地域の方々と顔合わせをしておくことで災害時に避難時の雰囲気良くなると思ったので、参加して本当に良かったです。
- ・実際にあった時に落ち着いて行動できるか心配ですけど、頼れる地域の人がいるので安心です。
- ・防災・防犯について自分は今まで軽く考えていたんだなと思いました。これからはもっと真剣に家族と話したり、災害についてもっと調べたりして減災に取り組むようにしたいと思いました。
- ・高齢者が多い地域のところに参加していたのでそう考えると我々中学生がよき手伝いができるなと思いました。
- ・今日の避難所訓練を振返って大切だと感じたことは協力することです。皆が我先にと行動してしまうと、本当に助けが必要な人がたすからないかもしれないから、どんなに小さなことでも、協力して行えるようにしたいです。
- ・中三である自分たちが、小学生などの年下を引っ張っていかねばならいと感じた。
- ・家の近くにおばあちゃんがいるのでその人と一緒に避難したほうが良いと思いました。
- ・僕の家は山の方にあるのもし大雨や地震などで崩れるかもしれないから気を付けようと思った。

<教員振り返り>

- ・指定避難所に予定の時間よりも早く中学生が集まってきたときに、市の職員の方から「どうしたらいいですか？」と聞かれました。「市の防災マニュアルではどうなっていますか？」「これは市の取り組みになっていると思います。」と話したところ、困惑している様子でした。市職員の方々の動きを確認してほしいと思いました。
- ・避難所では、市の職員の方々が拡声器を使って進行していましたが、何を言っているのか聞き取れませんでした。どんな進行で進むのか分からず、中学生を動かすときだけ手伝う形になってしまいました。聞きとりやすい機器の整備も必要と感じました。
- ・できれば、防災に関する体験（給水訓練、簡易ベッドの組み立て、お年寄りや小学生を中学生が整列させる、人数確認する）などがあればよかったです。（白石工業高校は「オレオレ詐欺の話」だったので。）
- ・東柳町はとても充実した防災訓練でした。消防の方、地域の方、そして中学生が協力して、段ボールベッド、簡易テント等を組み立てていました。
- ・準備等ありがとうございました。家でも防災マニュアル等作りました。私自身とても貴重な機会となりました。

◎白石南小中学校

1. 参加者数

児童・生徒数	19 人
教職員数	20 人

2. 令和6年度白石市総合防災訓練におけるご意見等

- ・本校は、今年度は学校独自の訓練参加としました。
内容は、各家庭でのシェイクアウト訓練、近くの一時的避難所の確認、保護者送迎のもと登校、避難所設営（テント、簡易ベット設営、受付体験）、防災学習、引き渡し訓練、下校です。
- ・多くの保護者が参加し、児童生徒の防災意識の向上につながりました。
- ・今後も顔の見える関係を築いていくために、小中学生の参加を希望したいです。